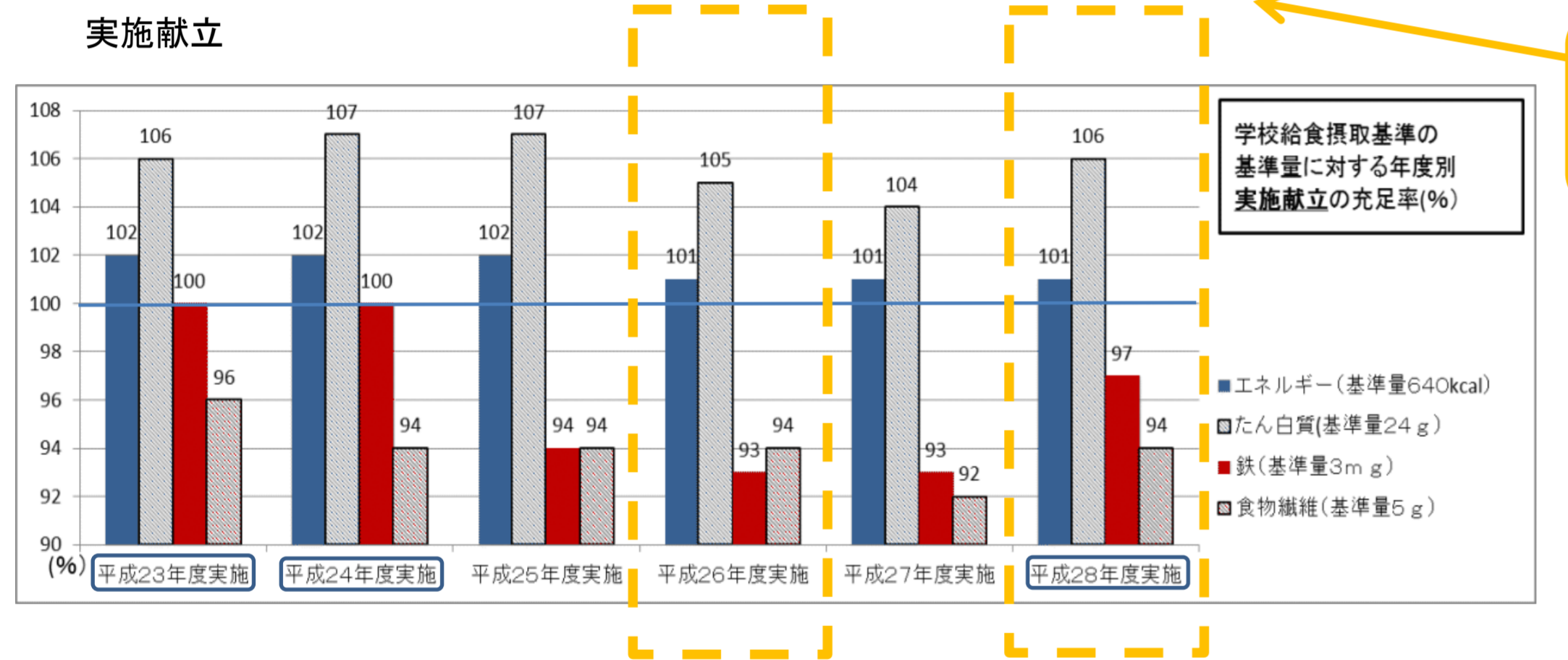
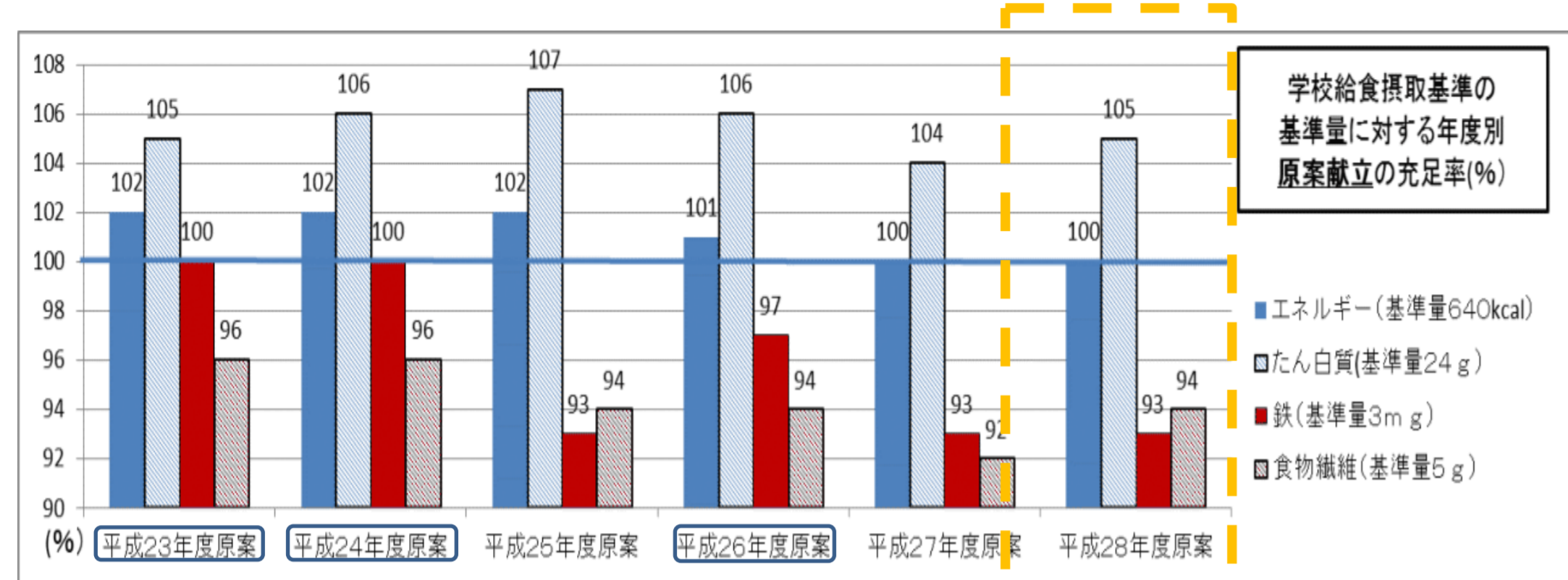


# 横浜市学校保健審議会資料 年度別献立比較

近年の食材価格の高騰により、26年度以降は次の対応を行っている。  
 ○26年度・・・急速に物価が上昇したため、給食費の収入だけでは基準献立原案通りの献立を実施することが困難になり、献立の調整を行いつつ、横浜市学校給食費調整基金(以下、基金という)で不足分を補てんした。  
 ○27年度・・・前年度の状況を受け、安価な食材に変更するなど、基準献立原案の工夫を行った。基金による補てんはなかったものの、学校給食摂取基準の充足率等は前年度より低下した。  
 ○28年度・・・前年度よりさらに物価が上昇し、基準献立原案ではさらに工夫を行ったが、給食費による収入では不足するため、エネルギーやたん白質の充足率を維持するために基金から補てんを行った。

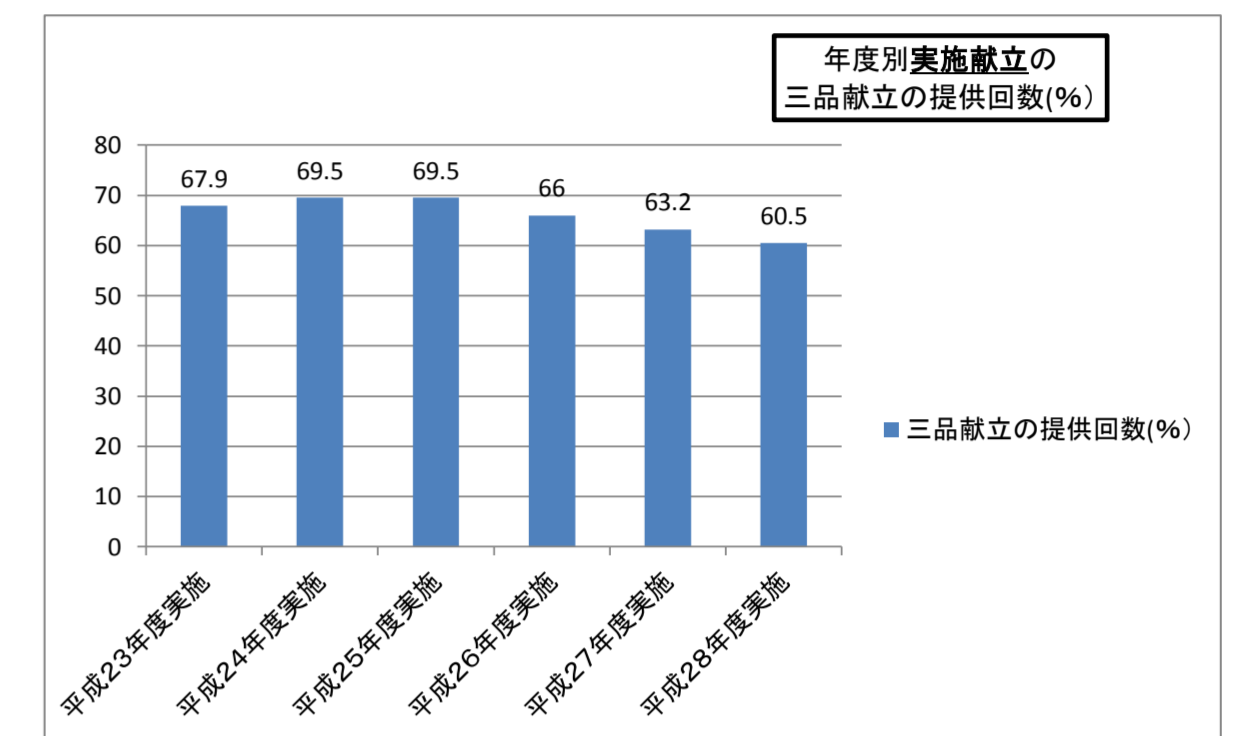
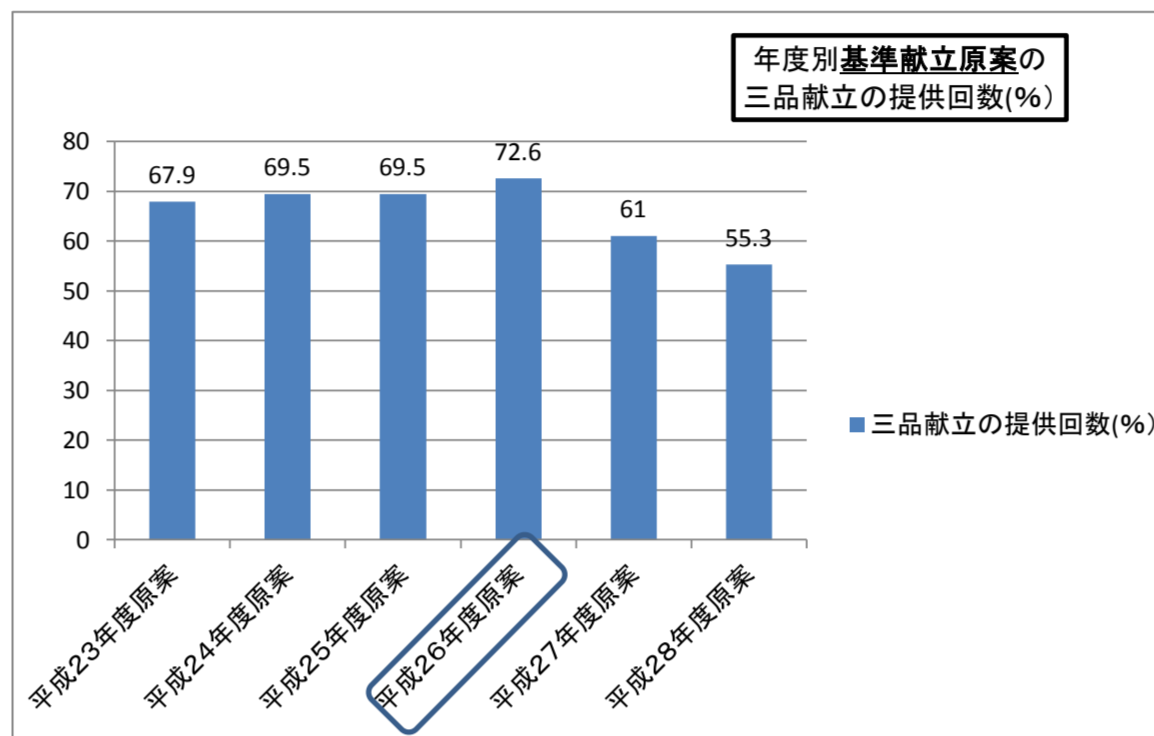
## ① 学校給食摂取基準に対する充足率

### 基準献立原案

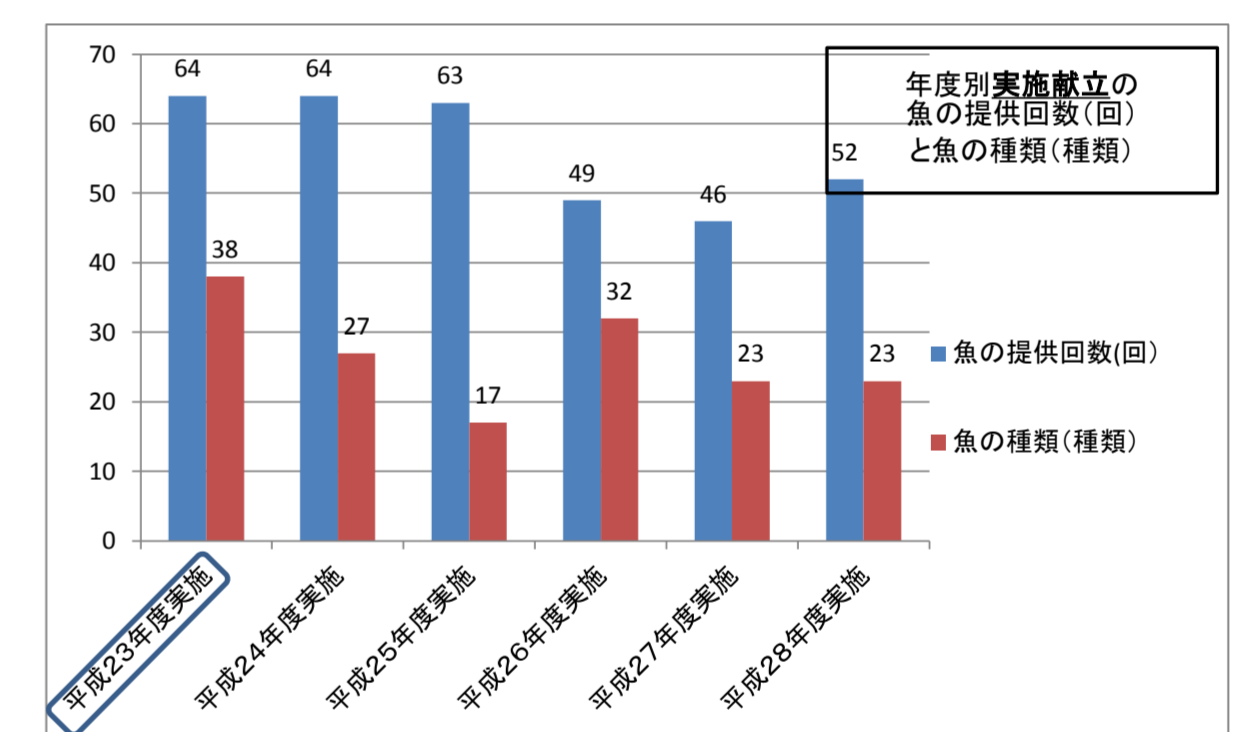
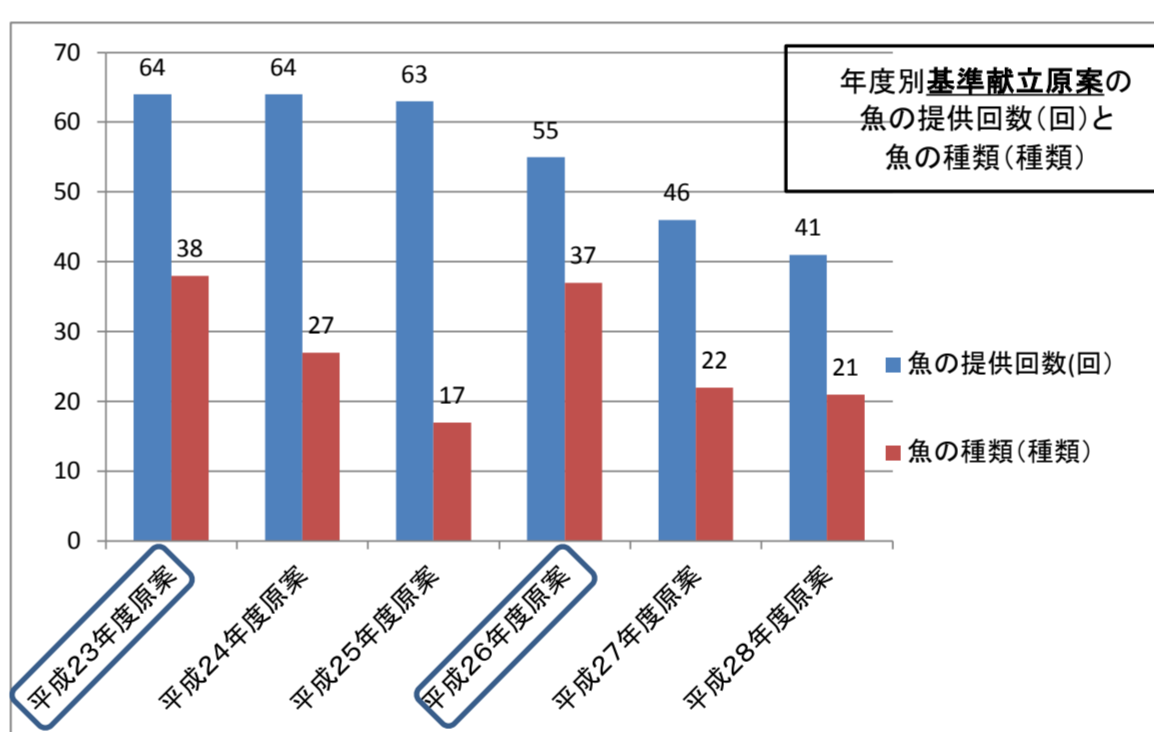


困み部分は、「横浜市学校給食費調整基金」から食材費不足分を補てんした年度

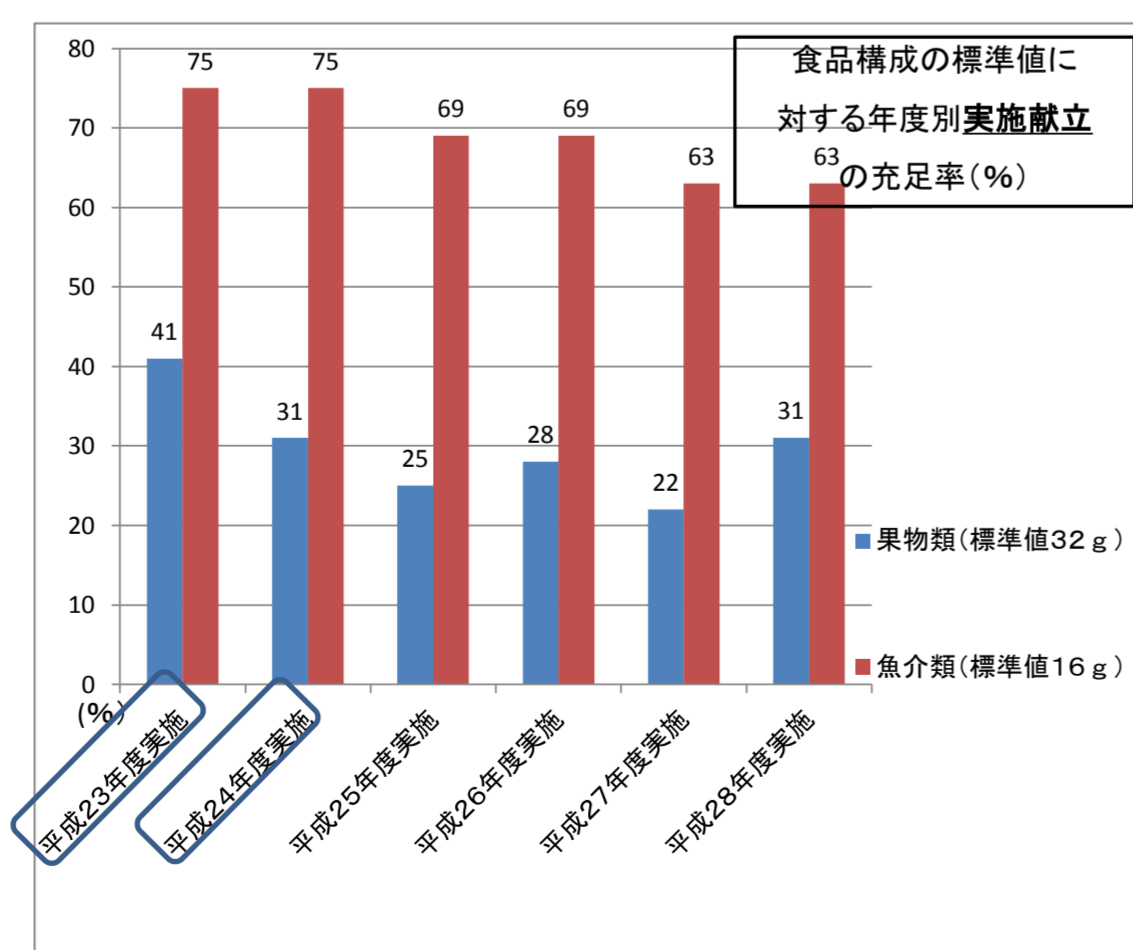
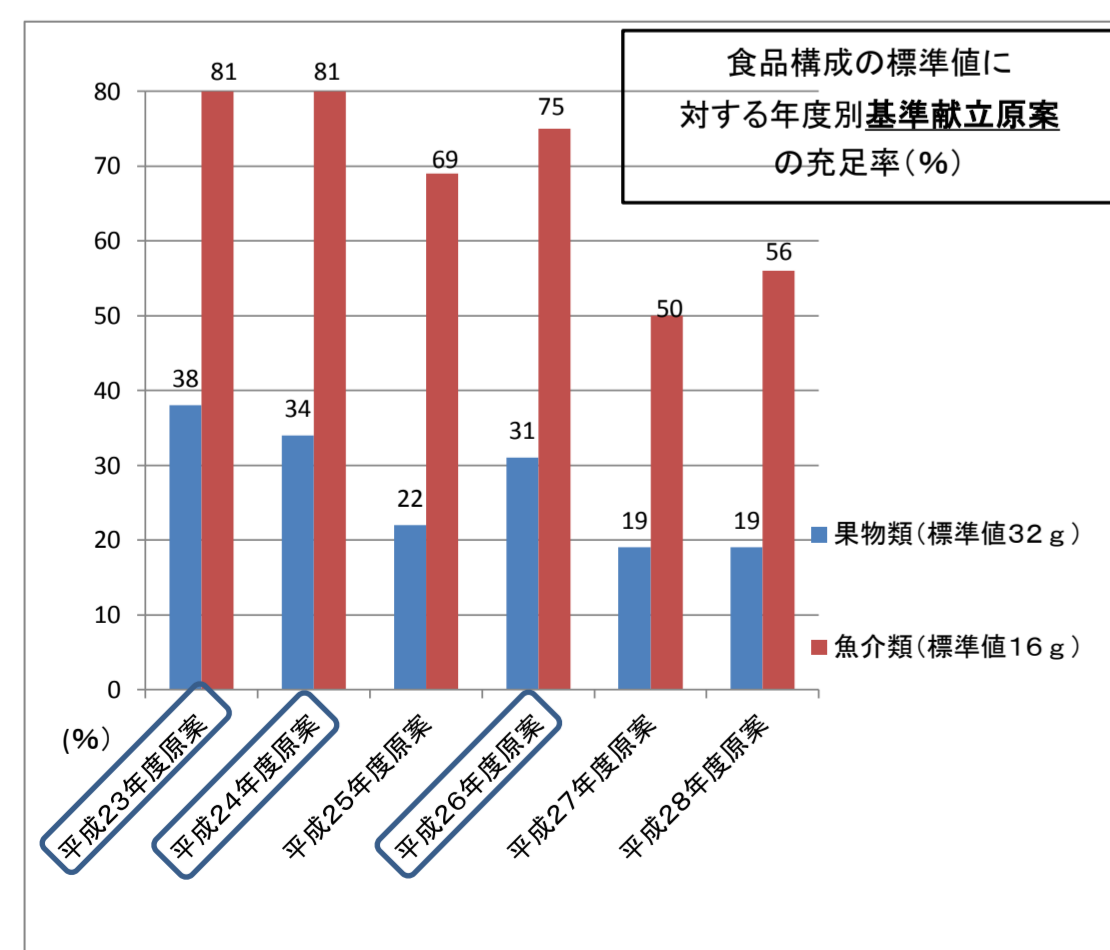
## ③ 年度別三品献立の提供回数(基準献立原案・実施献立)



## ④ 年度別魚の提供回数と魚の種類(基準献立原案・実施献立)



## ② 食品構成の標準値に対する充足率(基準献立原案・実施献立)



## ⑤ 平成23年度に原案通り実施した献立



## ⑥ 平成26年度に原案通り実施した献立

